

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり中の島		
所在地	札幌市豊平区中の島1条3丁目7-3		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月15日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=0170503874-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから最寄りの地下鉄駅までは徒歩5分程で立地が良く家族や友人が来訪しやすい環境にある。駐車場も完備し、周囲は商店街で病院も多い。街中にありながら公園や神社などもあり、普段の散歩、お祭り、お正月の初詣などもでき、季節感を味わえる環境にある。ハイエースやノアといった車輛を有し1回の頻度で、できるだけ入居者全員で外出し、桜や紅葉を鑑賞したり工場見学を楽しんだりレストラン等で外食を堪能している。やむをえず行けない方がいる場合は、出前を取り非日常感を味わってもらっている。開設から10年が経過し町内との交流も年々深まっており、町内バス旅行や公園の草取り、花植え等に参加している。町内会と合同で行っている夏の交流会は町内の一人暮らしの高齢者も参加し、毎年定着したイベントになっている。町内会役員や住民、家族や民生委員、地域包括センター職員が参加する運営推進会議は活発な意見交換や要望が聞かれ、認知症に関する研修等もやっている。中の島は防火のモデル地区になっており、ホームの消防訓練には多くの町内役員が積極的に参加している。町内会の緊急連絡網には「みのり中の島」も含まれており、近隣住民から一時避難場所の提供があるなど、災害時の協力体制もできている。また馴染みの方々が来訪しやすい雰囲気づくりを常に心がけており、家族や親戚、知人や友人なども来訪も多い。職員育成のための法人の教育システムは整っており、新入社員3カ月研修、1年研修、2年研修と段階的に行っている。役職者に対する研修も定期的に行われている。また虐待防止や身体拘束をしないケア等、数々の外部研修も職員が随時参加しており、入居者対応における教育も充実している。職員は毎年個人目標を掲げ、事業所の理念、事業所目標とともに目標達成に向けて常に振り返り行動し、よりよいケアの実現に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームみのり中の島」は、近くにショッピングセンターや商店、公園などがある地下鉄中の島駅から徒歩5分程の住宅地に立地している。居間や食堂はベランダに面した明るく開放感のある造りで、ソファや椅子、小上がりもあり、利用者が好きな場所でゆっくり過ごせるようになっている。開設当初から地域との交流に積極的に取り組み、町内のバス旅行に利用者数名と職員が参加して温泉や果物狩りを楽しんでいる。楽器演奏やバルーンアートなどのボランティアが事業所を訪れたり、保育園児の訪問や中学生の職業体験を継続して受け入れるなど、外部の方々と交流する機会も多い。地域と災害時の協力体制を築くことで、火災や水害などを想定した避難訓練に毎回多くの地域住民が参加している。毎月、「みのり通信」と担当職員による個人便りを作成して利用者の様子を家族に伝えている。本人の興味や職歴を活かしながら、漢字や計算ドリル、編み物、パズルなどを取り入れて認知症状の進行を遅らせるりハビリに取り組んでいる。冬季以外は、毎月、外出行事として外食やドライブに行ったり、誕生日にも本人の希望に応じて職員と一緒に外食や喫茶店に出かけている。浴槽のお湯を一人ひとり交換し、同性介助などの希望に沿った支援を行うなど、様々な面で個別対応を重視して温もりのある丁寧なケアを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	みのり中の島理念として「地域にとけこみ、いつまでも笑顔あふれるあたたかい暮らしを送って頂けるよう努めます」と謳い、朝の申し送り時に定期的に唱和することで職員の意識を高めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた内容を含む事業所独自の理念を職員と一緒に作成し、玄関やスタッフルームに掲示している。月曜日の合同申し送りで唱和している。町内の行事に参加する時など、地域との関わりの中で理念を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	花植えや公園の草取り、町内バス旅行等の町内行事に入居者と共に行えるだけ参加し、年に1回町内交流会を行い町内の方と顔なじみになったり、保育園の園児に定期的に訪問してもらったりと、地域で暮らしている実感が持てるようにしている。	事業所で開催する地域の高齢者との交流会に、楽器演奏や南京玉簾、バルーンアートなどのボランティアが来訪している。中学生の職業体験も継続して受け入れており、数名の生徒と一緒に歌をうたったり、ちぎり絵でクリスマス装飾を製作している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や消防訓練、町内交流会等で入居者と触れあう機会を作り、どんな援助が必要なのか身近に感じてもらっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では2ヶ月の活動報告や外部評価の結果、社内モニタリング結果を伝え意見を聞いている。	来訪時や電話、個人便りで家族に開催を案内し、研修報告や自衛消防訓練などを行っている。家族の参加者が限られているため、今後は事前にテーマを伝えて、参加できない家族の意見も会議に活かしたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では必ず地域包括センターの職員に参加してもらい、ホームのケアや取組みを伝えている。消防には訓練の届を出す際は、運営推進会議への参加をお願いしている。	管理者は、介護保険の更新申請や書類の提出などで区役所を訪問している。保護課の職員が来訪した時は、本人の様子を伝えたり相談することもある。担当者とは、何かあればすぐに相談できるような関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が順々に虐待防止研修に参加し、研修報告書を作成し閲覧することで情報共有し、スタッフルームに掲示してある『身体拘束の11項目』を日々目にする中で、自分の行っているケアが虐待にあたらぬか振り返っている。	身体拘束廃止マニュアルを整備し、外部研修後に報告研修を行ったり、報告書を回覧して職員間で周知している。スタッフミーティングで、行動を抑制するような不適切な言葉かけについて、ホーム長が指導することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内で身体拘束防止委員会やマニュアルがあり、どんな状態が拘束にあたるのか、本人や他入居者に危険があり、他に手段が無く行う場合はどんな手続きが必要なのか学んでいる。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で日常生活支援事業や成年後見制度について学び、必要時には活用できるよう検討している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要な部分は特に時間をかけて説明し、質問しやすい雰囲気を作っている。改定がある場合は文章と口頭で説明し、わからないところはいつでも聞いてもらうようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の要望は都度聞き、ケアプラン等に取り入れられたり、運営推進会議の際にも聞き取りしている。家族が職員に直に言いつらい場合は、1階玄関入口に本社直通のご意見箱を設置している。	毎月「みのり通信」と個人便りを発行している。家族の来訪時に本人の様子を伝え、意見や要望を聞き取っている。内容に応じて、「ご家族対応記録」やスタッフ用の連絡用紙に記入しているが、個別の記録にはなっていない。	職員間で情報を共有しやすいように、家族からの意見や要望、職員の気付きを個別に記録するよう期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と年に2回面談を行っており、その他ユニット会議やカンファレンス、社内の会議資料で要望・意見を書く欄がある等、聞く姿勢が作られている。	申し送りやカンファレンスで職員の意見や要望を聞き取り、課題に応じて検討したり業務の見直しを行っている。利用者担当職員との連絡ノートがあり、普段から意見交換ができる体制になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与は年俸制になっており、前年度の努力や実績が反映される。また、年に2回個人考課表をつけてもらい、管理者が評価することで個人のできていること、できていないことを把握できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務の一環として社内研修や外部研修を奨励し、休み以外でも研修に参加できるような体制にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市や豊平区の管理者会議の参加や、様々な研修に参加することにより、同業者との情報交換やコミュニケーションがとれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談から本人の要望を汲み取っている。入居後も交流の時間を大切にしながら本人の思いや希望を尊重するとともに、少しでも不安要素を軽減し安心を確保できる関係性が築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で、家族の思いや要望を聞いている。来訪時には必要に応じて本人の様子を伝えるとともに、意見や要望があれば傾聴し対応できるよう努めている。また、希望や必要時には面談を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望を汲み取り、他のサービス利用も視野に入れながらその時々に応じた支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や台所仕事など、出来ることは職員や他入居者と一緒に行い、互いに支え合う関係づくりができるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては時に相談したり、電話や来訪時に本人の様子を伝えながら、共に本人を支えていけるよう関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人などが気軽に来訪できるような雰囲気、環境づくりに努めている。また、贈り物に対する感謝の手紙や、知人から来たハガキの返信など、本人の希望に合わせて行ってもらい、関係が継続できるよう支援している。	家族と一諸に友人が来訪したり、職場関係の方が訪ねて来ることがある。宗教関係者と交流を継続している利用者もいる。誕生日に、職員と一緒に喫茶店に出かけて好きなコーヒーを飲んだり、外食に出かける方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握した上で、皆で一緒にできるレクリエーションを行ったり、月に1度の行事の中で交流を深め支え合えるような関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も継続し相談の受付を行っている旨を伝えており、必要に応じて都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりの話しを傾聴し、思いや意向を言葉で表現できない入居者には、表情や動作等から把握するよう努めている。	アセスメントシートの定期的な見直しの課題に対して、新たにモニタリングシートを作成して3か月毎に全職員で記入している。趣味や嗜好などの情報の追記が十分行われているとは言えない。	センター方式の書式などを活用しながら、趣味や嗜好などの変化も定期的に追記するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人のこれまでの生活歴や生活環境などを入居時に家族や本人から話しを聞き確認している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録にその日の様子や心身状態の変化等を詳しく記載し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、スタッフ全員の意見を取り入れ、現状に即した介護計画を話し合い作成している。	担当職員を中心に評価を行い、家族や本人の意向を反映させながら3か月毎に介護計画の見直しを行っている。介護サービス検討会議に利用者が参加することもある。本人に介護計画を説明してサインを貰うこともある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その日の業務前に、職員間連絡帳、医療関係記録、業務日報等を必ず読んで情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況により、入居者の買い物スタッフが代行している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学校の職場体験の受け入れや近所の保育園児が毎週、保育士と来訪し触れ合っている。町内会交流会に参加し、地域の住民と交流できるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は本人や家族の希望を大切にしている。訪問診療を受けているが、必要に応じて家族同行で他の医療機関も受診してもらっている。	全員が協力医療機関の往診を受けているが、専門医は家族と一緒に受診している。家族が受診支援する時は、書面で健康状態を担当医師に伝えている。受診記録を個別に整理したいと考えている。	

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化等は迅速に職場内の看護師や訪問看護師に報告し相談し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した場合は、早期に退院できるよう医療機関と連携し、面会に行き病院関係者から情報を引き出し、退院前にはカンファレンスを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や、終末期のあり方について。早い段階から、医師を交えて、本人や家族の意向を確認し、方針を共有している。	「重度化(主に看取り)に関する指針」を作成して利用開始時に事業所として可能な対応を説明している。健康状況の変化に応じて訪問医と家族、事業所で方針を検討している。看取りの勉強会も実施しており、状況に応じて看取り対応も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に備えて、全職員が応急処置等の訓練や研修を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害等の避難訓練を地域の方々と交えて年2回行っている。	消防署の協力の下、日中の火災や水害などを想定した避難訓練を実施している。夜間の火災を想定した自主訓練も行い、共に5名～10名の地域住民が参加している。今後は地震を想定したケア別の対応について話し合いたいと考えている。	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、誇りやプライバシーに配慮した対応をとっている。	他の人に聞かれたくないことは居室で話をしている。得意なことに関わる機会を作っている。職員研修でコミュニケーションや接遇を学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の希望を聞き取ったり、表情から読み取り自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が好んでいることや、興味がありそうな事をそれぞれに勧め、行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自身でできる方には声かけし、必要な方には支援する等、個々に合わせた対応をとっている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを事前に伝えたり、配膳後片付けを職員と一緒にこなしている。行事のメニューなど入居者の希望を聞いて提供している。	普段は、法人の栄養調理部から半調理されたものが届くが、毎月の外食や出前の機会も多くある。訪問寿司の実演や、「みのりの会」でノンアルコールビール楽しんでいる利用者もいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や水分量を記録し、摂取量の少ない入居者には声かけし、好みの飲み物を勧めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯みがきの声かけ見守りし介助が必要な入居者は口の中を観察しながら介助している。訪問の歯科衛生士の指導を受けているので指示された内容に沿って口腔ケアを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を見て間隔が空いてる入居者には声かけや誘導を行っている。排泄の観察を行い記録している。	排泄記録に全員の状況を記録しており、ケース記録も活用してパターンを確認しながら適切なトイレ誘導をしている。パッドの使用量が減ったり、パッドを利用していた方が布パンツに改善されるなど、自立に向けた取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に毎朝牛乳を提供している。水分が足りない入居者にはその都度声かけし水分を勧めている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の体調に合わせて声かけし入浴している。好みの温度や時間希望を聞いている。入浴中もコミュニケーションをとっている。	午後の時間帯に、一人ずつ湯を入れ替えて平均週2回～3回の入浴を支援している。入浴順や同性介助の希望があれば、できるだけ浴うように支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中に活動してもらえよう体操やレクリエーションを行い、傾眠がちな入居者には時間を決め休息してもらっている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されてる薬の説明書をよく読み、医師や薬剤師の指示に従い服薬介助にあたっている。また、処方薬の変更があった場合も内容が共有できるように受診対応のノートに記入し確認している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやお盆拭きなどの家事を行い、達成感と喜びのある日々を過ごしてもらえよう支援している。			

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(すずらん館)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度全員で景色を眺めに外に出かけ、外食を楽しめるよう支援している。希望者はスタッフと共に、町内会のバス旅行に参加している。	徒歩で行ける近くの喫茶店に出かけたり、町内の交流会に参加している。ドライブで札幌湖や百合が原公園、土木研究所に桜を見に出かけている。利用者の希望に応じてカラオケに行ったり、玄関先で外気浴をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金については、本人の状態に合わせて所持されている。外出時に買い物がある場合は、使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人等からの電話の取次ぎ等を行っている。携帯電話を所有されている方もおり、自由に使用されている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングに季節感のある飾り付けを行っている。入居者の要望に迅速に応えられるよう、共有のひざ掛けがすぐ取り出せるところにあり、過ごしやすく工夫している。	広い居間に6畳の畳の小上がりがあり、循環空気清浄機や加湿器で過ごしやすい空間となっている。壁には、温かみのあるちぎり絵や季節の装飾が施されている。利用者は、ソファや椅子に腰かけて職員と談笑している。居間の窓からは人や車の往来も見え、マラソンの時期にはベランダに出て走者の応援をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者同士で趣味や会話を楽しめるよう配慮し、静かに音楽や読書など楽しめるよう居場所作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	慣れ親しんだ家具をおいており、塗り絵など趣味の作品などを掲示しており、安らげるお部屋作りに努めている。	居室の表札代わりに自分の好きなマスコットを飾り、入居前から使い慣れたキーボードや楽譜、好きなぬいぐるみを持ち込み、自分らしく自由に暮らせる部屋になっている。冠婚葬祭の写真や家族の写真に囲まれて居心地よく過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下に手すりを設置。浴室には滑り止めを設置している。居室の入り口に暖簾や小物入れがあり、人形など置いてあり、自室だと分かりやすいように目印にしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170503874		
法人名	株式会社 アクティブ・ケア		
事業所名	グループホームみのり中の島		
所在地	北海道札幌市豊平区中の島1条6丁目7-3		
自己評価作成日	平成29年12月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームから地下鉄駅までは徒歩5分程で立地が良く家族や友人が来訪しやすい環境にある。駐車場も完備し、周囲は商店街で病院も多い。街中でありながら公園や神社などもあり、普段の散歩、お祭り、催事、出店見物、お正月の初詣なども季節感を味わえる環境にある。ハイエースやノアといった車輛を有し月1回の頻度で外食し、桜や紅葉を觀賞したり、利用者の誕生日には個別に外食も堪能している。町内会と合同で行っている夏の交流会は町内の一人暮らしの高齢者も参加し、毎年の定着したイベントになっている。町内会役員や住民、家族や消防署員が参加する運営推進会議は活発な意見交換や要望が聞かれ、認知症に関する研修等も行っている。中の島は防火のモデル地区になっており、ホームの消防訓練には多くの町内会役員が積極的に参加している。町内会の緊急連絡網には「みのり中の島」も含まれており、近隣住民から一時避難場所の提供があるなど、災害時の協力体制もできている。また馴染みの方々が来訪しやすい雰囲気づくりを常に心がけており、家族や親戚、知人や懐かしい友人などの来訪も多く、近隣にある保育園の園児が散歩途中に立ち寄りたり、中学生の職場体験を通し地域の子供達との交流も深めている。職員育成のための法人の教育システムは整っており、新入社員3か月研修、1年研修、2年研修と段階的に行っている。役職者に対する研修も定期的に行われている。また虐待防止推進研修や防火・救命実務研修等の外部研修も職員が随時参加しており、入居者対応における教育も充実している。職員は毎年個人目標を掲げ、事業所の理念、事業所目標とともに目標達成に向けて常に振り返り行動し、入居者へのよりよいケアの実現に取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kagokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&JigyoSyosyoCd=0170503874-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成29年12月15日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を朝の申し送り時に定期的に唱和し、職員の意識を高めることで実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内交流会を年に1度実施し、町内会の行事にも入居者と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内行事参加や交流会、消防訓練の協力をお願いなどを通して、認知症の人への理解や支援方法を地域の人々に向け活かしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では活動報告でサービス等の状況を報告し、参加者と意見を交わしながら、サービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	役所の担当者には、書類提出の際に事業所の実績やサービスの取り組みを伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束11項目を目に付きやすい所に貼り出すなど、職員全体が拘束に関する知識を高め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止推進研修会に参加した職員は研修報告書を作成し職員全体に回覧し、情報共有していると共に防止に努めている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は研修等で日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は解約時の事も含み充分時間をかけて説明している。改定がある場合や不安や疑問点については都度説明し、理解、納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の思いは常に傾聴し、家族が来訪時には要望や意見を尋ねている。来訪できない家族の場合も必要の都度連絡をとり意見を聞き、運営に反映させている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と定期的に面談する機会を設けている。また社内グループウェアで自由に意見が述べられるようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行い、各スタッフの意見や要望を管理者が把握するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に本社で研修を行うほか、職場内でも外部から講師を呼んで様々な研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	様々な事業者が集まる研修に職員が参加し、都度交流や情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居面談の際、本人に悩みごとや要望を聞き不安をなくすよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談の際、家族にどのような要望があるかを確認しニーズの把握に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に詳細に本人の行動や言動を記録し、どのように考え行動しているのかを職員同士共有しながら、必要な支援を日々確認している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人と積極的にコミュニケーションをとり、職員の見守りのもと、できる事は自分でしてもらうようにしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月1回、手紙で入居者の状態を伝えるようにしている。来訪時には直接伝え、家族の希望や悩みを聞くようにしている。必要であれば都度面談を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族がいつでも来訪しやすい雰囲気作りに努め、来訪時には丁寧に対応するよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	できるだけ入居者同士でコミュニケーションをとってもらい、必要であれば仲立ちをしている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も必要に応じ相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議やカンファレンスで一人一人の状態を話し合い、介護計画に反映させている。できる限り本人の意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にセンター方式にて状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々ケース記録に一日の様子、心身状態の変化などを詳細に記載し把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者からの意見も取り込み、入居者本位の介護計画を必要に応じ作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の体調の変化や状況が分かるようにケース記録に記載し、申し送り時に伝え、共有した情報を元に話し合い見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状況により、通院の同行など柔軟に対応している。家族が来訪され希望により同じ食事を摂っていただいたり、宿泊も可能である。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	中学生の職業体験・ボランティアの受け入れをし地元との交流を行っている。町内会との合同避難訓練や、消防職員の指導による避難訓練を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望により、訪問診療や外部受診等の医療が受けられるよう支援している。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより毎週1回看護師が訪問し、各入居者の健康管理、医療面での相談に対してのアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	長期入院によるADL低下を防ぐため病院関係者との情報交換や相談などの機会をもち、短期間で退院できるよう必要な支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた方針を決めており、早めに家族、医師、看護師などと話をして方針を決め、支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は防火訓練や救命講習を受講し対策をしている。消防訓練も定期的に行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会役員も含まれている緊急連絡先を活用し、町内会参加での避難訓練を行っている。運営推進会議を活用し地域との協力関係を築いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重しプライバシーを損ねないような言葉かけや対応を心がけている。記録しているものは、他者に見えないようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できるかぎり本人の希望に沿う支援を心がけたり、自己決定できるような声かけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人それぞれに合わせた対応を心がけている。得意な事や興味のあることを行えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容を利用し、希望に沿うようにしている。洋服選びも本人に確認する等の支援を行っている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者ができる範囲で下膳したり、職員と共に後片付けをしている。誕生日には好みの食事や外食など対応している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を記録し、少ない摂取量にならないように声かけをしたり、本人が食べやすいように形態を工夫して提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、できない利用者は介助している。入床前に義歯を預かり洗浄剤を使用し清潔を保っている。定期的に歯科衛生士のケアも受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間や日にちを記録し、定期的に行えるように声かけをし、自立支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取の声かけや、毎朝牛乳を提供して便秘の予防に努めている。テレビ体操や入居者に合わせた手足の運動を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調の変化に合わせて入浴日の変更をしたり、湯船に浸かるのが負担になる場合シャワー浴と足湯にするなど臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中体操などの運動を取り入れ夜間しっかりと眠れるように支援している。また一人ひとりの生活習慣や状況の把握も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などについては訪問診療対応ノートを活用し、全員で共有し服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	台所仕事など個々のできる役割支援を行い、月1回の外出行事や、みのりの会なども行っている。		

グループホーム みのり中の島

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ひまわり館)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回は外出し外の景色や外食を楽しめるよう支援している。また、誕生日には職員同行でランチ外出をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解し、個々の希望に沿って支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等に電話を取り次ぐことはもちろん、希望時には手紙のやり取りができるように支援をしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビは誰も見ていない時は消し、付けっぱなしにならないように心がけている。入居者が好む番組は録画し日中にかけている。定期的に温度・湿度をチェックし快適な状態を保っている。四季にあった装飾も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	独りになりたい時は居室に行き、ホールでは食席やソファで気の合う利用者同士が座れるよう配慮したり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの家具を持ってきてもらい、家族と相談しながら馴染みのある雰囲気生活できるように環境作りをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	安全かつできるだけ自立した生活を送れるよう廊下、トイレ、浴室に手すりを設置している。入浴時は滑り止めマットや状況に応じてシャワーチェアを使用している。テーブル等の配置も考慮している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームみのり中の島

作成日：平成 30年 1月 12日

市町村受理日：平成 30年 1月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	職員間で情報を共有しやすいように、家族からの意見や要望、職員の気づきを個別に記録するよう期待したい。	医療記録や家族対応記録を時系列に見られるよう個別に書くようにし、ご家族から言われたことだけでなく、来訪時に気にされていたことや、職員の気づいた入居者の変化も記入できるような書式にする。	今までのノートではなく、入居者別に記入できる書式を作成し記録する。	1ヶ月
2	23	センター方式の書式などを活用しながら、趣味や嗜好などの変化も定期的に追記するよう期待したい。	ケアプラン更新の際に、センター方式の書式にできることの変化や好み、新たな情報等記入し活用していく。	順次ケアプラン更新の際に、センター方式を活用する。最低限1年に1度は以前の情報と違うところはないか見直す期間を設ける。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。